

スムーズな経口投与のために

門別診療所 富樫 雄三

今年の夏は例年より暑い日が続いておりましたが、ようやく涼しくなってきましたね。

肺炎や下痢の治療、駆虫などの理由で飼養者さんに口からの投薬をお願いすることがあります。お薬をお渡しして「馬はお薬飲んでくれますか?」と聞くと、うまくいかないという返答をしばしば受けます。特に、投薬に慣れていない当歳馬が薬を吐き出すという悩みを多く聞きます。また、飼料に混ぜて全部食べているから問題ないよというお話を耳にします。しかし、馬が飼料をこぼしたり、薬だけ避けて食べたりするのはよくありますので適切な投与方法ではありません。

必要量をきちんと飲んでいるかは薬の効果に大きな影響を及ぼします。今回は馬にスムーズに経口投与するためのポイントをまとめました。

まず1つめのポイントは粉薬や錠剤を溶かす水分量です。たくさん水を使えば薬は溶けやすいですが、全体量が多いと吐き出されるリスクが大きくなります。薬により水への溶けやすさはまちまちですが、全体量は当歳馬で30mL程度、1歳以上で50mL程度にするのがよいでしょう。

次のポイントは馬の好みの味にすることです。薬の苦味を紛らわすともいえます。馬の舌から喉にかけては味を感じる組織があり、その数はヒトよりも多いそうです。馬もヒトと同様、甘味と塩味は積極的に摂取しようとし、苦味と酸味は避けようします。よって、投薬の際はシロップなどを混ぜることで、甘味を足し、苦味をマイルドにするのがよいと考えられます。

以上2点を考慮すると、市販されている幼児用の投薬補助剤(写真)が使いやすいです。この製品はゼリー状のため口からこぼれ落ちにくくなっています。さらに、果物に似た味や香りがついており薬の苦味を和らげてくれるため、苦味の強い薬に特にオススメです。

投薬器を使って当歳馬に飲ませるときを想定して調整方法を説明します。まず投与する錠剤は砕いておきます(粉薬はそのままでよいです)。そして投薬補助剤約15mLを投薬器に入れ、そこに薬を足します。最後に水を足して全体量を約30mLにします。補助剤のみであると投薬器で押し込むのがやりにくいので少し水でゆるめるのがよいです。

要点をまとめますと

- ・薬を溶かすための水は控えめに(全体量で当歳は30mL、1歳以上は50mLを目安に)

- ・薬の苦味を抑えるために甘味を加える

(甘みを足すだけではうまくいかないときは投薬補助剤も活用しましょう)

日常の馬管理の一助となれば幸いです。最後までお読みいただきありがとうございました。



図写真：投薬補助剤の一例

<https://www.ryukakusan.co.jp/promotion4> より引用